

日本良導絡自律神経学会雑誌 発行日 令和6年6月15日
12月(No.1)・3・6月(No.2・No.3)・9月(No.4)各15日 発行通巻562号
ISSN 0913-0977
CCC 73330



令和6年6月

VOL.69 No.2・No.3合併号 (通巻562号)

The Japanese Journal of Ryodoraku Medicine

日本良導絡自律神経学会雑誌

日本良導絡自律神経学会 東日本支部 第 615 回良導絡研修会

■令和 6 年 4 月 28 日 対面と後日 YouTube 配信によるハイブリッド形式で開催されました。

●時間：午後 12 時 30 分～16 時 50 分

●場所：東京医科大学病院 8 階会議室

良導絡体験相談 (12:30～13:00)

良導絡技術指導部による実技体験等

基礎講座 (13:00～14:00)

◆入門Ⅲ「生理的範囲とアナログ測定の臨床的活用法」(15分ワンポイント実技「花粉症」)

鍼灸いぶき院長・良導絡認定師 白井百合先生

臨床講座 (14:10～15:10) 実技供覧

◆「直流電気針の作用機序と肩関節周囲炎への施術」

白井おうちクリニック 小田博久先生

教育講演 (15:20～16:50)

◆「安全な 危険な 通電とは？」

関町病院麻酔科・ペインクリニック科・日本良導絡自律神経学会副会長 加藤信也先生

以下、会員の中村彰宏先生のレポートです。

講座に先立ち、良導絡体験相談が行われました。良導絡技術指導部長の佐藤秀治先生が実際に症状のある参加者をモデルに解説しながら治療を行い質問に答えていきました。語り口がリズムカルで 30 分と短い時間とは思えない密度の濃い時間でした。良導絡技術指導部による実技体験は、本年 12 月まで継続して開催されます。

基礎講座は入門Ⅲ『生理的範囲とアナログ測定の臨床的活用法』というテーマで白井百合先生が担当されました。生理的範囲の基本的な求め方と臨床的な求め方の違いについて、また異常良導絡の様々な出現パターンについて説明していただきました。生理的範囲を定める前に、中谷先生が様々な条件との関連性を研究されており、その一部をエピソードとして織り交ぜながらお話しいただいたので、とても分かりやすかったです。ワンポイント実技では花粉症を取りあげ、実際に臨床で行っている即効性のある経穴やローラー鍼の使い方を教えていただきました。

続いての臨床講座は『直流電気針の作用機序と肩関節周囲炎への施術』のテーマで学会誌にハリ施術考を連載中の小田博久先生のお話でした。直流の陰極通電は強アルカリの性質があり、タンパクを溶かし組織に損傷を与えるため、12V175 μ A の 7 秒通電で、置鍼 20 分の組織損傷にほぼ匹敵するとの説明がありました。刺入すると鍼周囲の血管が弛緩し、周囲の組織が血液を含んで柔らかくなるが、決して筋肉が緩むわけではないとのこと。治療の際に、握り導子（陽極）の代わりに中枢側に不関電極（陽極）を当てることにより、末梢の方にマイナス電位が行くようにすれば、傷の治りや神経的な軸索の伸びも促進されるという話はとても興味深かったです。

最後は副会長・東日本支部長の加藤信也先生の教育講演。「安全な危険な通電とは」の演題で基礎化学の理論をベースにして、体液の電解質の組成とステンレス鍼の材質から直流通電時に起こっている電気分解を解説し、鍼の電蝕が起こるメカニズムを分かりやすく説明してくださいました。鍼の電蝕量は電氣量に比例するため、1 回の治療の上限の目安とされる 1C に到達するにはどれくらいの通電時間に必要なのか、直流と交流で比較し、また陰極と陽極での電蝕の可能性について示されました。今回の講演を聞いて良導絡治療で行われている直流陰極通電がより安全であることを再確認しました。全日本鍼灸学会のガイドラインでも直流パルス通電について正しい記述がなされることを切に願います。(レポート:中村彰宏)

